

医療的ケア児の保護者支援からみえてきた「子ども理解」の課題 —インタビュー場面の分析から—

Issues of “child understanding” seen from the support of parents of medical care children
— From the analysis of the interview scene —

小田 良枝 ODA Yoshie

本研究は、医療的ケア児の保護者に保育所での「子ども理解」の課題を検討することを目的とした。医療的ケア児の保護者1名に対して、出産前から5歳児1月までの生活を振り返りインタビューを実施した。保護者の語りと筆者の保護者の語りの理解をKH-Coderで解析した。結果から「出産前後から保育所入園前（生後約1年）」の保護者の語りと筆者の保護者理解のカテゴリーの相違はカテゴリーの理解に殆ど相違はなかった。しかし、「保育所入園後から就学前」の保護者の語りと筆者の保護者理解は、「保護者の思い」と「保育者の保護者支援」の狭間に生じる「医療的ケア児の支援方法の相違」が明らかとなった。「医療的ケア児の支援方法の理解」が、「保育者の認識」、「医療的ケア児への保育士配置」、「医療的ケア児への援助方法」から生じていると考えられ、医療的ケア児の支援が保護者の求めている支援と異なることが認められた。

このことから保育者として、常に保護者理解が保護者の思いとずれているのかもしれないという自覚を持ち接していくことが大切であることが明らかになった。

キーワード：医療的ケア児、子ども理解、インタビュー場面

倫理審査申請承認機関：一般社団法人日本医療保育学会（30-001）

I. はじめに

厚生労働省から、2016年以降、医療的ケア児に対する処遇改善に対するモデル事業や実践研究報告が多くされている。医療的ケア児の多くが、小児の難病である小児慢性疾患に罹患していることも多いため、医療的ケア児を支援する取り組みが進められている。筆者が勤務していたT市公立保育所では、1993年から障害児保育指定園として障害児保育の取り組みは行われている。現在、医療的ケア児に対する保育も障害児保育の取り組みの一つとして行われている。

2018年3月に改訂された「全国保育士会 倫理綱領ガイドブック」¹⁾には8つの条文があり、3 保護者との協力には、「保育士等は、保護者と子育ての持つ豊かさを共感しながら

ら、保護者の力を引き出すことが大切です。特に、家庭・家族の状況や子育てに対する考えを理解し、寄り添いながら信頼関係を築いていくことが大切です。受容的・共感的態度で保護者の話を聴いたり、保護者や子どもに必要な情報をわかりやすい方法で積極的に開示・提供したり、苦情に対しても職員が協力して適切な対応をするなど、日々の取り組みが重要です。」¹⁾とあり、保護者の置かれた状況や意向を受け止めていく責務がある。

2018年、筆者は医療的ケア児が在園するT園に主任保育士として異動し、導尿時の医療的ケア児と保護者に継続的に関わり、親子の変化から保護者支援のあり方を探った。継続的な関わりの中で、保護者に負担のある導尿時に関する保護者支援のあり方について、実践の中で理解していった。保護者との基本的信頼関係は、導尿時の関わりから構築されたと認識していた。しかし、保護者が本当に求めている支援について、保護者からの依頼はなく、気がついていない場面が多いのではないかと考えた。そこで、医療的ケア児の就学前の1月に、保護者へのインタビューから、卒園までの2ヶ月の保育の希望や保護者理解と保育所に求められる保護者支援のあり方を探っていきたいと考えた。

II. 研究の目的

保育所での5歳児の二分脊椎の女児の保護者に筆者がインタビューを行い、医療的ケア児の育ちの振り返りから就学前の課題や保護者支援について検討していくことを目的に本研究を行った。

III. 用語の定義

本稿の言葉の定義として、「医療的ケア」とは、「医療保育セミナー」²⁾(日本医療保育学会編)を参考に「医療的ケアとは、家族や看護師が日常的に行ってきた定期的な導尿」とする。

また、厚生労働省の医療的ケア児の説明として「医療的ケア児とは、医学の進歩を背景として、NICU等に長期入院した後、引き続き人工呼吸器や胃ろう等を使用し、たんの吸引や経管栄養などの医療的ケアが日常的に必要な児童のこと。全国の医療的ケア児(在宅)は約2.0万人(推計)」³⁾とある。本研究の医療的ケア児が必要とする導尿は医療的ケアの排泄関係に含まれる。

IV. 研究方法

1. 研究対象者

対象者は、医療的ケアが必要な二分脊椎の5歳児女児の保護者1名。

(保育園園長、保護者に文書による了承を得たうえで実施)

事例に、保護者は母親、医療的ケア児は、Aちゃんと記載した。

2. 調査方法

保護者には事前に、平成29年度 T市小中高特連携教育推進協議会 T市教育委員会作成「T版 個別的教育支援計画の活用と引き継ぎの手引き この子の未来のために」の一部引用「プロフィール」「生育歴」「子どもの様子」「知ってくださいシート」の記載を依頼した。保護者のプライバシーが保持できる場所で筆者がインタビュアーになり、記載された資料を基にインタビューを行いデータの収集を行った。面接内容は保護者の許可を得た上で録音し、保護者の語りそのままをデータ化した。面接は1回、時間は60分とした。筆者は、保護者インタビューをした際の保護者理解を語り口調の文書でデータ化した。

3. 分析方法

保護者には、記載された事前資料を基に出産から入園までの経緯や保育所での生活、就学前の思いについてインタビュー方式で話を聞いた。保護者へのインタビューは、パソコンのボイスレコーダーを使用した。インタビュー後、録音データを文字に起こした。①面接で得られた保護者の語り②保護者の語りを聞いた筆者の保護者理解の2つを「出産前後から保育園入園前（生後約1年）」と「保育園入園後から就学前」にそれぞれ分類しKH-Coderで解析した。KH-Coderの分析考察は筆者が行った。分析考察の際は、教育学の研究者から指導、援助を受けた。それぞれ、2つの共起ネットワーク図で示し、2つの差異から保護者理解のずれについて検討した。

KH-Coderの分析の「共起ネットワークとは、文書からその文書の特徴づける語の抽出を行い、特徴語同士の共起関係のネットワークを図に示したものである。」⁴⁾とあり、インタビューした際の母親の発した言葉を単語に分け、単語が共通に出現する関係を円と線で表示し言葉の関係性を示している。強い共起関係ほど濃い線、出現回数の多い語ほど大きい円を示す。

4. 倫理的配慮

一般社団法人日本医療保育学会の倫理審査委員の承認を得た。保護者には、研究の概要、得られたデータから個人が特定できないこと、公開発表、研究への自由参加、中途辞退の権利と共に研究以外にデータを使用しないことを口頭で説明し、依頼書及び同意書の交換による了解を得た。研究終了後、パソコンのボイスレコーダーに録音した音声は、データから削除した。

V. 結果

共起ネットワーク図に示されたつながりを順番に1) 2) …として、まとまりごとに命名した。①②で、共通している内容は同様に命名した。

1. 「出産前後から保育園入園前（生後約1年）」 母親の語り

出産前後から保育園入園前（生後約1年）に関する母親の発言の共起ネットワークを図1に示した。線で囲っている2つのまとまりができた。まとまった抽出語から、2つのまとまりを出産前後の順にそれぞれ 1) 出産前の気持ち 2) 出産後の気持ちと命名した。以下に各まとまりの詳細を述べる。

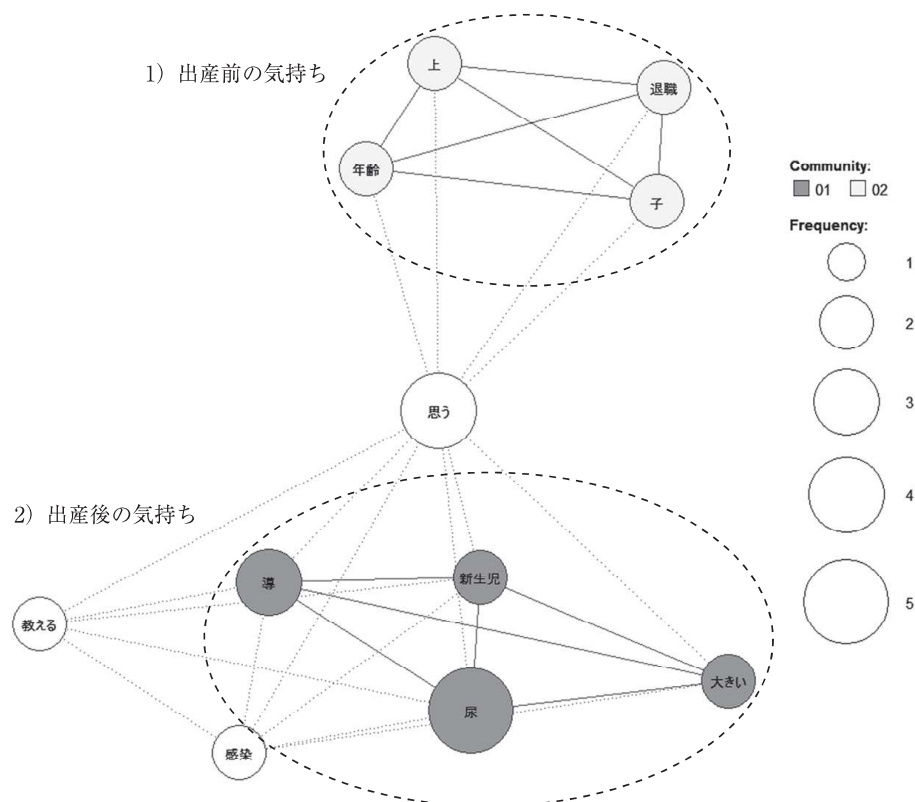


図1 「出産前後から保育園入園前（生後約1年）」に関する母親の語りの共起ネットワーク

1) 出産前の気持ち

母親の出産前の気持ちの動きが示されている。「上」「子」「退職」「年齢」という4つの単語がつながりを持っている。Aちゃんは、兄弟児2人と年齢が離れた第3子であった。母親は「上」の子どもたちとの時間を、第3子の出産を機に子どもたちと過ごそうと考えていたことが示されている。その為に、仕事を退職したことを示している。

2) 出産後の気持ち

医療的ケア児が生まれてから母親は常に導尿のことを「感染」を心配しながら「思う」毎日を過ごしてきたことが理解できる。母親の職業は看護師であり業務として導尿は経験していたという。しかし、新生児の導尿には緊張し、神経を使ったという語りがあった。新生児の導尿の難しさ、カテーテルの細さが「思う」という言葉で回想されている。実際、生後暫くは母親が一人で医療的ケア児の導尿を行っていた。自分一人での導尿について、

自分に対応できないときのことを考え、家族に導尿の方法を知らせたことや導尿の際の心配が感染症であったことが、母親の「教える」「思う」として繋がっている。

2. 「出産前後から保育園入園前（生後約1年）」 筆者の保護者理解

出産前後から保育園入園前（生後約1年）に関する筆者の保護者理解の共起ネットワークを図2に示した。線で囲っている3つのまとまりができた。まとまった抽出語から、3つのまとまりを強い共起関係の順にそれぞれ 1) 出産前の気持ち 2) 出産後の気持ち 3) 子どもの病気と命名した。以下に各まとまりの詳細を述べる。

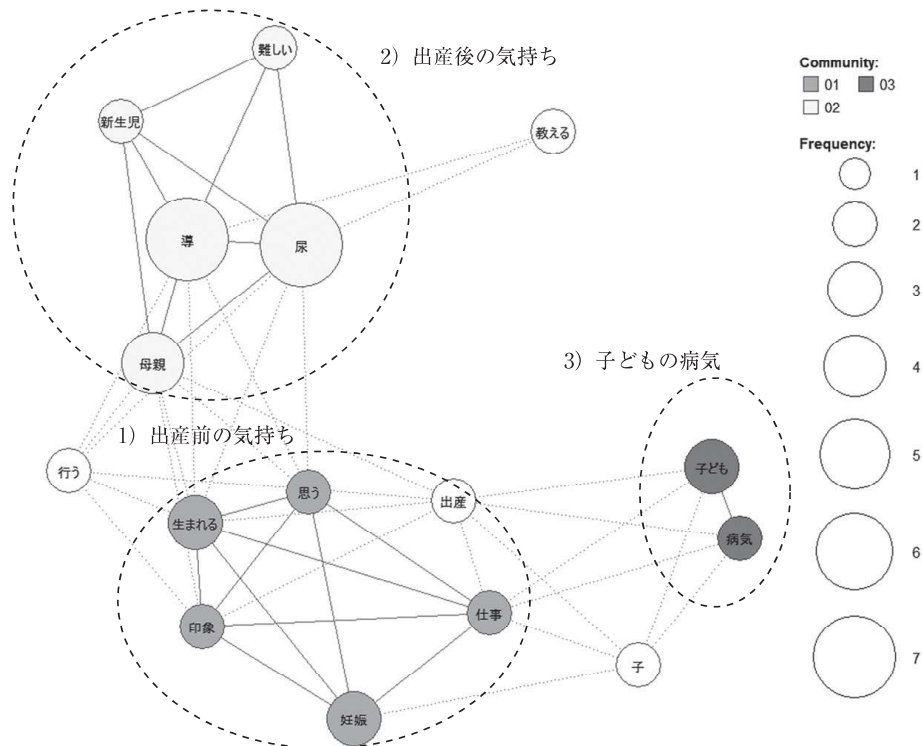


図2 「出産前後から保育園入園前（生後約1年）」 筆者の母親理解に関する語りの共起ネットワーク

1) 出産前の気持ち

「出産」にあたって心の整理をしたと分析していることが理解できる「生まれる」「妊娠」「仕事」「印象」「思う」という語が五角形のようにつながっている。筆者の理解した語りがそのまま母親の気持ちとして単語がつながっている。出産を機に、仕事を一度休む決断をしたところから仕事という単語で示されている。

2) 出産後の気持ち

「導尿」「難しい」「新生児」「母親」という言葉でつながっている。出産後と理解したのは「難しい」という単語があったからで、実際に導尿を行い母親が感じた実感だからである。インタビューの際「新生児の導尿に実際に取り組み導尿の管が細く驚いた。」という言葉もあり、産後すぐに導尿に慣れるまでの取り組みの状況が理解できる。

3) 子どもの病気

「子ども」「病気」という言葉の結びつきは、自分の子どもが病気があると出産前にわかっていたが、事実として出産後の子どもの手術や入院、その子の体の状態を見たことにより、自分の子どもの病気の状況を理解したのではないかと考えた。母親自身が認識し、深く理解したと考えた。

「子ども」「病気」はそれぞれ「仕事」「出産」という言葉とも結びつきがある。自分の子どもの病気が出産によって生まれてきた現実から理解が深まり、母親自身は自分の仕事についても考えたことが理解できる。

3. 「保育園入園後から就学前」母親の語り

保育園入園後から就学前出産前後に関する保護者の語りを共起ネットワークの図3に示した。線で囲っている4つのまとまりができた。まとまった抽出語から、4つのまとまりを強い共起関係の順にそれぞれ 1) 保育園での生活 2) 母親の気持ち（運動機能について） 3) 兄弟関係 4) 家庭での様子と命名した。以下に各まとまりの詳細を述べる。

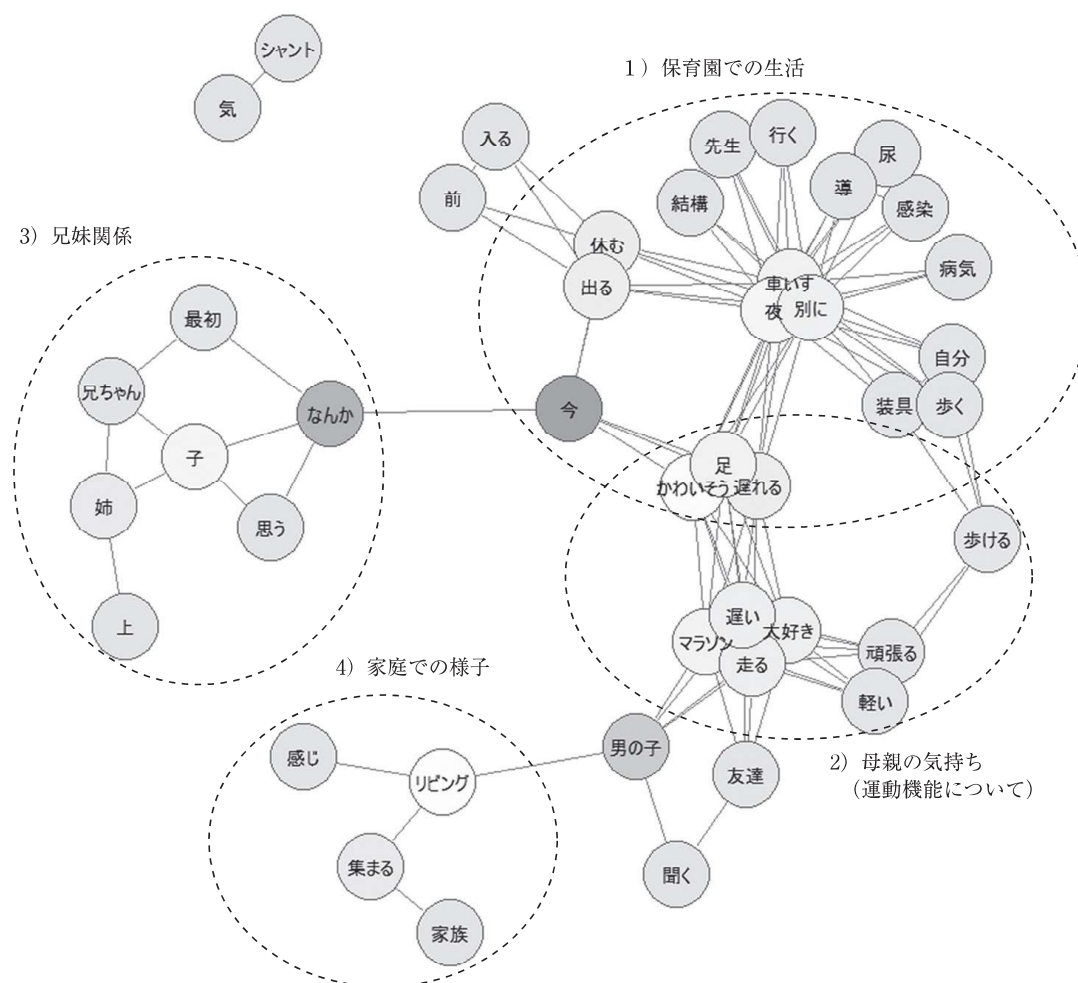


図3「保育園入園後から就学前」に関する語りの共起ネットワーク（母親の語り）

1) 保育園での生活

保護者からは、導尿についてよりも歩行に対しての話が多くあった。車椅子は、今後使用するかもしれないので用意しているとのことであった。録音終了後に、小学校の就学に向けて園での集団の様子が分からないという話があった。例えば、クラス全員が時間を目安に保育室を移動する際に、Aちゃんは、時間を意識して他の園児と同じ様に急ぐ姿があるのか心配していた。Aちゃんには、常に担任が傍にいる状況があり周囲の状況を気にせずマイペースではないかと母親は心配していた。話の最後に出た一言であり、実は、一番心配している課題ではないかと理解した。

また、「休む」「出る」「今」の繋がりは、ある医師から「夜中の一回くらい導尿しなくても大丈夫だよ。それよりもお母さんがゆっくり休める方が大事。」と話があり心が軽くなったと回想していたことが示されている。医師としてのアドバイスであると共に母親に寄り添うエピソードだと理解した。このエピソードから保育士の専門性を活かした関わりは何か改めて考えさせられた。母親の話を言葉のまま理解すると共に母親の気持ちに寄り添い理解しようとする意識、専門家のアドバイスが、母親の気持ちを楽しみ、言葉にならない絆や信頼関係を築くのではないかと考えた。

2) 保護者の気持ち（運動機能について）

最近になり、医療的ケア児が、なぜ自分は導尿をするのかなど聞く姿もあったという話があった。また、母親の「もし、病気でなかったら足は速かったと思う。」と語る場面があり、運動が好きな本児への母親の葛藤の姿が示された。Aちゃんに対して、「かわいそう」という気持ちと今の一生懸命取り組む姿に対して認める気持ちと病気でなかったらという母親の気持ちが認められる。

「かわいそう」「足」「遅れる」の単語は、1)の保育園での生活と共有として考えた。「車椅子」の単語とのつながりが強く、歩行の状況や装具の状況とこれらの単語とのつながりが強いと考えたためである。

3) 兄弟関係

「最初」「兄ちゃん」「姉」「上」「子」「思う」と母親の会話の際の「なんか」が単語で示された。「最初」は、生まれた頃で、かわいいかわいいと兄弟児が構っていたと話をしていた。また、兄弟の年齢差があることもあり、上の2人とAちゃんという関係で子ども関係であったことが認められた。現在は、姉（インタビュー当時高校一年生）は、第1子であり日常的に妹の世話をしているとのことであり、母親が導尿できない場合（夜勤など）導尿なども行うということであった。兄（インタビュー当時中学三年生）とは、けんかをよくする関係であるが、いつもくっついていて母親は話をしていた。兄弟関係は、常に側にいる関係であるように認められた。

4) 家庭での様子

「家族」「集まる」「感じ」の言葉が「リビング」でつながっており、家族はリビングにいつも集まっている状況が認められた。その理由として、Aちゃんがいるからではないかと母親は考えていた。自宅ではAちゃんが、基本的にリビングで過ごしているということであった。父親や兄弟は、仕事や学校から帰宅すると最初にAちゃんの様子を確認するように家族がリビングに集まる姿があると話をしていた。Aちゃん存在により家族の絆が深まっていると母親は考えていた。

4. 「保育園入園後から就学前」 筆者の保護者理解

保育園入園後から就学前に関する筆者の保護者理解の共起ネットワークを図4に示した。線で囲っている6つのまとまりができた。まとまった抽出語から、6つのまとまりを強い共起関係の順にそれぞれ 1) 就学前の母親の気持ち 2) 医療的ケア児の保育 3) 登園状況 4) 保護者支援の本質 5) 筆者の思い 6) Aちゃんの課題と命名した。以下に各まとまりの詳細を述べる

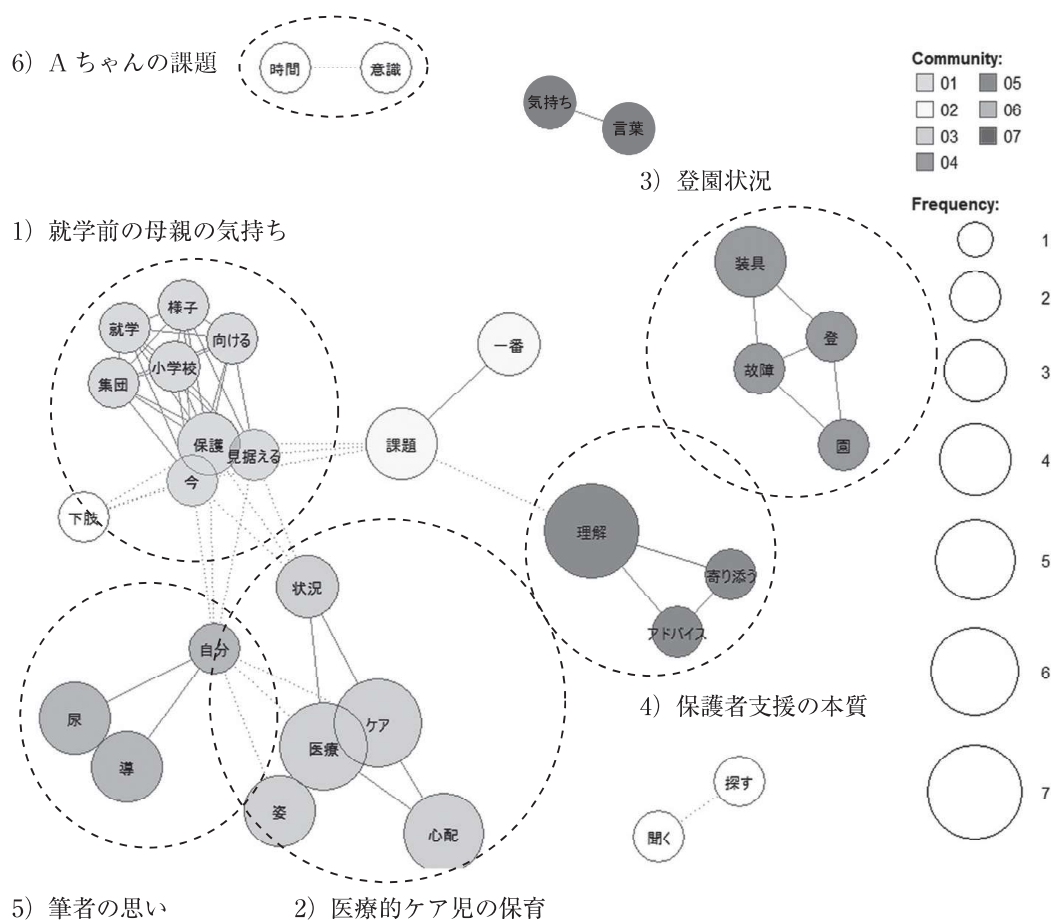


図4 「保育園に入園後」筆者の母親理解に関する語りの共起ネットワーク

1) 就学前の母親の気持ち

「就学」「小学校」「様子」「集団」「向ける」と「保護」「今」「見据える」の2つの単語のまとまりが1つの単語のまとまりとなっている。小学校へ入学する際に、母親の心配している内容が1つのカテゴリーとなっている。インタビュー最後に筆者が「インタビュー最後に、就学を前にして実は気になっていることとかありましたら教えてください。」と聞き、母親が話した内容である。母親は園での日常生活の姿が気になっていた。園では、常にAちゃんの移動や体育遊びの際など保育者が1対1で付き添っている。母親は、小学校の教室移動の際など一人で移動することが予想され、一人で集団について行けるのか気にかけており、現在の園での様子を確認したいと考えていた。

2) 医療的ケア児の保育

「状況」「医療」「ケア」「心配」「姿」が単語のまとまりとなっている。医療的ケア（導尿）の必要な子どもの保育について、子どもの状況を把握し就学までを見据えた保育の必要性を考えたことを示している。つまり、保育者が子どもの状況を把握し、就学に向けて「心配」とされる内容を確認する必要性を示している。就学前、就学後の導尿と自立導尿へ向けた援助について考えていたことが示された。

3) 登園状況

「装具」「故障」「登」「園」の4つの単語がまとまりとして示された。「登」「園」は導尿と同様で、「登園」という一つの単語で示される。「登園」するには、必ず「装具」を装着する必要がある、「装具」が「故障」すると「登園」できないこととつながっている。

5月に新しい装具になったが、その後何度か装具の故障があり、その度に欠席が続いた（2週間～1ヶ月ほど2回）。装具を使用しないと歩行が殆どできないことと安全性の保持のため登園することができず（入所前の保育園との話し合いで決まっていたようである）、自宅で過ごすこととなった。保育園に入所3年間に、検査や装具の故障や下肢の手術などで長期欠席することも度々あったという話があった。

4) 保護者支援の本質

「理解」「寄り添う」「アドバイス」の3つの単語がまとまりとして示された。「理解」は「課題」とつながっており、筆者の子ども理解、保護者支援において重要な考え方が示された。このまとまりは、筆者の保護者理解が示されているが、母親の話の中で導尿に対して悩んでいる時のエピソードが基になっていると考えられた。その内容は、夜中の「導尿」について、母親が悩んでいた時の医師からのエピソードが起因している。筆者は、そのエピソードを聞き保護者への支援は、正論を言うことや「そうですね。」と聞くだけではないことにハッとし気が付いた場面であった。

5) 筆者の思い

「自分」「導」「尿」が一つのまとまりになっている。保護者支援として導尿時の様子を見守ってきたことから、常に導尿について考えていたことが示されている。園での支援も就学へ向けての支援も自立導尿の働きかけを意識していたことが理解できる。

6) Aちゃんの課題

「時間」「意識」は、最後のインタビューの母親の話から理解したAちゃんが身につけておきたいと母親が考えていたことである。集団帰属意識が薄く、周りの子どもたちが、活動のために移動していても慌てる様子が見られないことが課題であると母親が認識していたことに筆者自身の理解した内容が示されている。

VI. 考察

1. 「出産前後から保育園入園前（生後約1年）」 保護者の語り、筆者の保護者理解

保護者の語りと筆者の保護者理解のKH-Coderの結果は、共起の強さや関わりは多少異なっていたが内容的には殆ど同じであった。それは、筆者自身がその当時の状況を見たこともなく、話を言葉のまま理解したためだと考えられた。

母親は、産休直前の検診で胎児に病気があることを知り、出産前、出産後で考えたことや思い出す内容がまとまりとして示されていた。出産前は、上の子どもたちともゆっくり過ごす予定であった第3子出産についての思い、出産後はAちゃんの育児が導尿中心の毎日であったことが示されていた。出産前後を1) 2)「思う」という単語でつないでおり、振り返りの中で導尿に慣れるまでの大変さは筆者自身も毎日の導尿の様子を見ていたことから想像することはできた。しかし、この想像も、筆者自身の理解であり、保護者の気持ちとのずれがあるかもしれないと自覚する必要があると考えた。

2. 「保育園入園後から就学前」 保護者の語り、筆者の保護者理解

保護者の語りと筆者の保護者理解では、まとまりの数や内容に違いがいくつか見られた。母親の語りからは、装具を付けての歩行、車椅子の使用も今後考えられることなどが導尿についてと共に 1) 保育園での生活 として一つのまとまりとして示されていた。しかし、筆者のKH-Coderには示されなかった。このことは、筆者自身が、装具を付けての歩行をAちゃんの当たり前の姿として認知しているが、母親は今後のことも含め、装具を付けての歩行に対して複雑な気持ちがあることが示された。そのことは、 2) 母親の気持ち（運動機能について）の部分で、母親は、Aちゃんが運動会のリレーやマラソンなどの場面で喜んで走っているAちゃんの姿を見れば見るほど、「もしも健康な子どもであったら走るのが速かったかもしれない。」という回想からもあるようにやるせない気持ちになったのかもしれないと理解した。

また、2つのKH-Coderの比較の中で、筆者は、母親のインタビューから家族の様子や兄

弟間の健全な様子が理解できたためか筆者のKH-Coderには、それらの内容はまとまりとして示されなかった。このことから、問題や課題でない内容について理解はしてもそれ以上の認識として捉えず、筆者自身の中で解決していることが認められた。

筆者は、母親のインタビューをAちゃんの保育園生活の課題や母親への支援の在り方について考えながら整理して聞いていたことが明らかになった。その為、筆者自身の理解や考えがいくつかのまとまりになって示されていた。そして、T市の職員配置によりAちゃんに対しては1対1で保育できるように配慮されており、常に傍にいる保育を行っていたが、側にいるだけで就学を見据えた保育・教育になっていないことが明らかになった。また、4) 保護者支援の本質 は、医師と母親との夜間の導尿についてのエピソードからであるが、保育士の専門性を活かした関わりは何か改めて考えさせられた場面のエピソードであった。母親の話を言葉のまま理解すると共に母親の気持ちに寄り添い理解しようとする意識、専門家のアドバイスが、母親の気持ちを楽にし、言葉にならない絆や信頼関係を築くのではないかと理解した。

Ⅶ. 結論

今回の事例研究では、Aちゃんの卒園前の保護者へのインタビューから医療的ケア児の保育園生活の課題や保護者支援の在り方を探っていきたいと考えた。

「医療的ケア児の支援方法の理解」が、「医療的ケア児への保育士配置」「医療的ケア児への援助方法」から生じていると考えられ、保育園の医療的ケア児への支援が保護者の求めている支援と異なることが認められた。

母親は「今」のAちゃんの課題を見据えていた。走る等の下肢の動きや小学校就学に向けて心配しており、集団の中でのAちゃんの姿について知りたいことが理解できた。筆者は毎日の母親の様子から導尿が一番の課題であろうと判断していた為、筆者の保護者理解とKH-Coderの分析が異なっていたことが明らかになった。保護者支援の視点として、母親と共にAちゃんの「今」の状況を把握し「今後」を見据えた課題に対する保育が必要だと理解した。

つまり、Aちゃんの保育園生活の課題や保護者支援のあり方は、第一にAちゃんの今の姿や心の動きを的確に捉え、その場で必要な援助方法を判断し、実践をする。そして、母親に対してはAちゃんを中心とした関係の中で、共に成長を喜び合えるような保育を行う。母親の言葉とその奥にある気持ちを知ろうと寄り添う。課題はその場で解決策を一緒に考え、提案することではないかと考えられた。保護者理解には常にずれが生じていると認識した上での保育が必要であると認められた。

今回、KH-Coderの分析をもとに保護者理解を客観的に分析していった。母親の語りの中で筆者自身が重要だと考える部分が、KH-Coderの分析から認識できない部分がありKH-Coderの分析の限界を感じた。母親の話をただ聴く中で、「分かった」のではなく言葉に

込められた意味や気持ちが「わかっていなかった」とズレがあることであった。その場面は、言葉の数ではなく言葉の重さや意味、母親の表情などから理解した。保育者としての「保護者理解」は、「子ども理解」につながり、子どもの育ちに客観的に必要な支援を考えていくこと、その子にとって一番大切なこと、つまり、「最善の利益」を考えた保育・教育を毎日の保育の中で行うことも改めて大切なことであると理解した。

今後は、医療的ケア児の保育園での行事の参加からの集団の中での育ちについて、毎日の保育実践の積み重ねから「子ども理解」を深めていきたい。

引用文献

- 1) 全国保育士会 編 柏女霊峰 監修：全国保育士会倫理綱領ガイドブック，152，2018
- 2) 日本医療保育学会 編：医療保育セミナー，209，株式会社建帛社，2016
- 3) 厚生労働省 子ども家庭局保育課母子保健課：平成 29 年度医療的ケア児等の地域支援体制構築に係る担当者合同会議 「医療的ケア児に対する 子育て支援について」，1-2，2017，
"<https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12200000-Shakaiengokyokushougaiho-kenfukushibu/0000180996.pdf>"
- 4) 樋口 耕一：KH-Coder 2.x リファレンス・マニュアル，59，2015

参考文献

- 1) 全国社会福祉協議会 編：新保育所保育指針を読む [解説・資料・実践]，16-17，社会福祉法人 全国社会福祉協議会，東京都，2018
- 2) 厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部障害福祉課 障害児・発達障害者支援室：医療的ケア児等の支援に係る施策の動向，令和 2 年 1 月 15 日
<https://www.mhlw.go.jp/content/10800000/000584473.pdf>
- 3) 文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課：学校における医療的ケアの必要な児童生徒等への対応について，30 文科初第 1769 号 平成 31 年 3 月 20 日
- 4) 盛岡淳美、松浦和代：特別支援学校における児童生徒の医療的ケアに関する保護者の視点からみた現状の問題とニーズ，日本小児看護学会誌 vol26，118-124，2017
- 5) 石塚希世美、相磯友子：保護者は特別支援学校における医療的ケアをどのようにとらえているか -保護者へのインタビュー調査から-，植草学園短期大学研究紀要 第 12 号，71-78，2011
- 6) 久保山茂樹・小林倫代：保護者の「語り」から考える早期からの教育相談，国立特殊教育総合研究所，教育相談年報，第 21 号，11-20，2001

- 7) 厚生労働省：喀痰吸引研修，2012，
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/seikatsuhogo/tannokyyuin/04_kensyuu_01.html
- 8) 厚生労働省：医療的ケアが必要な子どもへの支援の充実に向けて，障害福祉サービス等報酬改定検討チーム，厚生労働省社会・援護局 障害保健福祉部障害福祉課 障害児・発達障害者支援室，平成30年，<https://www.mhlw.go.jp/content/12200000/000365179.pdf>
- 9) 空田朋子：医療的ケアが必要な子どもを養育する保護者の保育園・幼稚園の利用実態とニーズ，27-33，山口県立大学学術情報 第8号〔看護栄養学部起用 通巻第8号〕
2015年3月

参考資料 保護者がインタビュー前に記載したシート

ふりがな

なまえ
(児童)



【お願い】

お話を伺う際に記入して持ってきて
ください。

本園入園以前に他の保育機関等に通園していましたか？ 1:していない 2:していた

機関名 入園 年 月 日 退園 年 月 日

機関名 入園 年 月 日 退園 年 月 日

本園入園日 年 月 日 入園理由 利用時間

園名及び所在地

生育歴

(チェックを付けましょう)

☐正常分娩 ☐帝王切開 ☐吸引分娩 ☐鉗子分娩

☐逆子 ☐仮死 ☐保育器使用

☐その他 ()

在胎週数 【 週】出生時体重【 g】

栄養【母乳・混合・人工】 離乳食開始【 か月】首のすわり【 か月】

寝返り【 か月】お座り【 か月】

ずりばい【 か月】 はいはい【 か月】 たかばい【 か月】

つかまり立ち【 か月】歩き始め【 か月】言葉の出始め【 か月】

歯のはえ始め【 か月】人見知り【有・無 か月頃】後追い【有・無 か月頃】

備考欄：※妊娠中、出産後のお母さんの様子や気持ちなどお聞かせ下さい

知ってくださいシート平成 年度

記入日：平成 年 月 日 クラス名： 氏名：

担任に知ってもらいたいお子さんの身体面・行動面の特徴などを書きましょう

身体面



<食事について>

<病気について>

行動面



その他



お父さん・お母さんはどんな感じですか



H30年度（ 年長児 ）クラス

子どもの様子 6歳の頃

現在のお子さんのご家庭での生活の様子を教えてください

生活習慣		それぞれの項目にチェックを付けましょう			記入日	年	月	日
食事	食べる時	☐ 一人で食べる ☐ 時々食べさせる ☐ 食べさせる						
	嫌いな食べ物	☐ ない ☐ ある（野菜・甘いもの・ばさばさした食感のもの・他（ ））						
排泄	小	☐ 一人でする ☐ 出る前に教える ☐ 出てから教える ☐ 教えない						
	大	☐ 一人でする ☐ 出る前に教える ☐ 出てから教える ☐ 教えない						
	トレーニング	☐ 紙オムツ（パンツ式も含む） ☐ 夜だけオムツ ☐ 布パンツ						
着脱		☐ 一人でする ☐ 一部手助けする ☐ たびたび手伝う						

6歳の頃	記入日	年	月	日
片足で5～10秒間たっていますか	☐ はい	☐ いいえ		
四角の形をまねて描くことができますか	☐ はい	☐ いいえ		
自分の「前後」「左右」がわかりますか	☐ はい	☐ いいえ		
ひらがなの自分の名前を読んだり、書いたりできますか	☐ はい	☐ いいえ		
おもちゃやお菓子などをほしくて我慢できるようになりましたか	☐ はい	☐ いいえ		
約束やルールを守って遊べますか	☐ はい	☐ いいえ		
6歳臼歯（乳歯列の奥に生える永久歯）は生えましたか	☐ はい	☐ いいえ		
保護者が歯の仕上げみがきをしてあげていますか	☐ はい	☐ いいえ		
朝食を毎日食べますか	☐ はい	☐ いいえ		
子育てについて困難を感じることはありませんか	☐ はい	☐ いいえ		
どんな食べ物が好きですか 例：				

本人の好きな遊びや得意なこと	本人の嫌いな遊びや苦手なこと
----------------	----------------

ありがとうございました